

及ビ諸大名衆ヨリ献上物ノ品々、略○中

一銀御杓子 一

井伊掃部頭直孝

〔好色二代男〕花の色變へて江戸紫

在郷より逢ひに寄られたる人、春に酢德利鹽朽ちたる目黒二十五日様のお筆表具の仕替へ、塗杓子を取交せ、略○下

〔好色五人女〕くけ帯よりあらはるゝ文

下女は又それ〴〵に金じやくし片手に、目黒のせんば煮を盛時、略○下

〔本朝二十不孝〕善惡の二ツ車

今一人の乞食も老足なれば、駕籠に乘せ、東路に下りぬ、残るものとして、滅形合器具杓子、古筵の朝露夕部に風の身を責め、略○下

〔新編相模國風土記稿二十七箱根宿略○中

以前ハ今ノ蘆川町ノ邊ニ、民家纔ニアリテ、山杓子ヲ

細工シ、箱根權現ノ坊中へ鬻ギテ活計トナセリ、故ニ當時ハ杓子町トイヘリト、此杓子ヲ、坊中ヨリニ添テ贈リシト云、

〔寶藏〕杓子

身を捨てあまねく物をすくふが爲に、釋子と字せり、此故にもろくのぼさつも、これにまたがへり、こゝにえせ者有て、取て定規として、其難をまうく、まかじ御意に入まいらせて、その果報にあづからんには、猶その風情なまめく人の小手招にこそ、

月はいも招く手もとは杓子かな

御多賀土産勿鄙 老若男女長命址 數奇者雖不誣殮 祝言振舞今一ヒ

〔和漢文操〕杓子頌

伊東恕